

マイルストーン開示に係る事業計画の修正について (平成22年12月期～平成24年12月期)

平成23年1月21日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社

(コード番号：4572 JQグロース)

(URL <http://www.carnabio.com/>)

問合せ先 代表取締役社長 吉野 公一郎

取締役経営管理本部長 相川 法男

TEL：(078) 302 - 7075

本日(平成23年1月21日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」を受けまして、平成22年2月19日公表のマイルストーン開示に係る事業計画及び平成22年8月6日公表のマイルストーン開示に係る事業計画を下記のとおり修正いたします。(表中の修正箇所は を付して表示しております。)

1. 今後の業績目標(平成22年12月期～平成24年12月期)

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成22年12月期(計画)	740	△344	△315	△344
平成23年12月期(目標)	<u>1,201</u>	<u>41</u>	<u>87</u>	<u>81</u>
平成24年12月期(目標)	<u>1,521</u>	<u>195</u>	<u>192</u>	<u>144</u>

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成22年12月期(計画)	571	△398	△370	△397
平成23年12月期(目標)	<u>770</u>	<u>△254</u>	<u>△200</u>	<u>△221</u>
平成24年12月期(目標)	<u>1,150</u>	<u>9</u>	<u>25</u>	<u>23</u>

(注)平成22年12月期は実績見込みによる数値、平成23年12月期は経営計画に基づき費目毎に予測金額を積上げた計画値、平成24年12月期は市場環境や企業規模の拡大見通し等を加味した推計値を記載しております。

2. 各事業年度の計画達成のための前提条件に係る事項

マイルストーン開示に係る事業計画の概要

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高		営業利益	
	創薬支援事業	創薬事業	創薬支援事業	創薬事業
平成22年12月期(計画)	620	120	87	△431
平成23年12月期(目標)	<u>801</u>	<u>400</u>	<u>192</u>	<u>△151</u>
平成24年12月期(目標)	<u>921</u>	<u>600</u>	<u>281</u>	<u>△86</u>

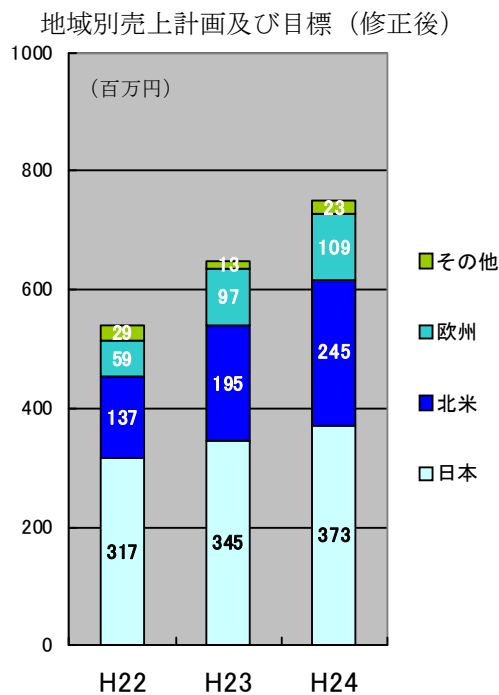
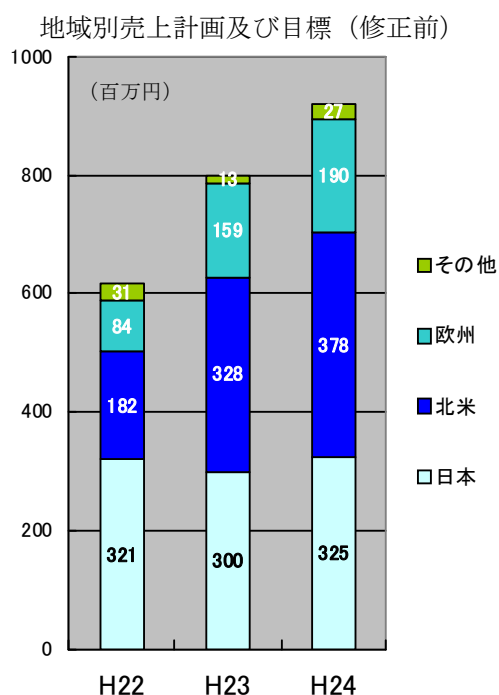
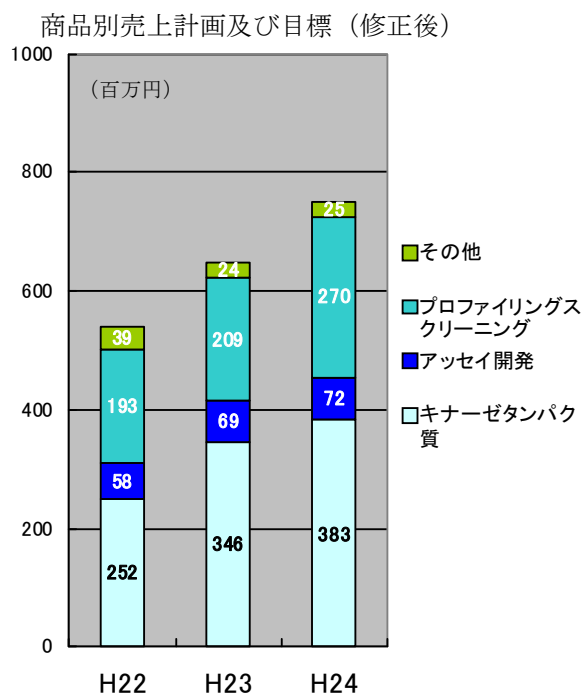
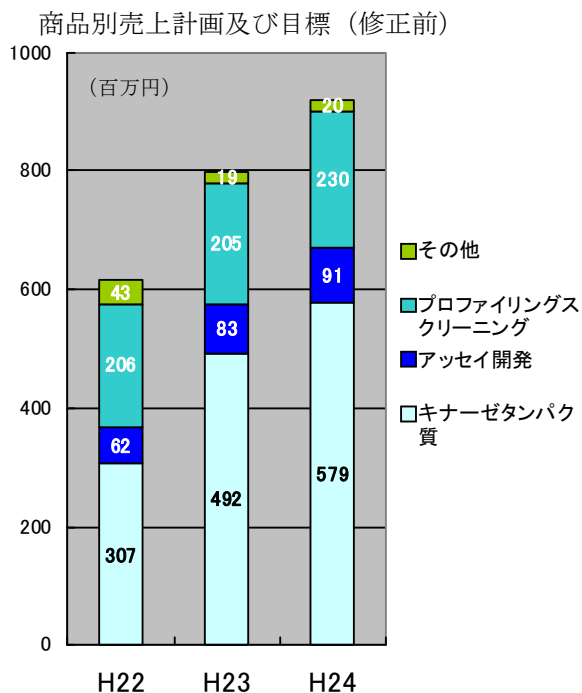
本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高		営業利益	
	創薬支援事業	創薬事業	創薬支援事業	創薬事業
平成22年12月期 (計画)	543	27	59	△457
平成23年12月期 (目標)	650	120	138	△392
平成24年12月期 (目標)	750	400	232	△222

創薬支援事業の商品別売上計画及び目標ならびに地域別売上計画及び目標を以下のとおり修正いたします。



本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

3. プロジェクト毎の研究開発計画

(1) 創薬事業における研究開発計画

【修正前】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）				1
	探索⇒前臨床（又は導出）		1	2	2
研究テーマ数		5	5	5	5
		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年

【修正後】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）				1
	探索⇒前臨床（又は導出）		0	1	2
研究テーマ数		5	5	5	5
		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年

(2) 研究開発費及び設備投資に関する計画

【修正前】

(単位：百万円)

		平成22年12月期	平成23年12月期	平成24年12月期
研究開発費	創薬支援事業	4	6	6
	創薬事業	413	405	539
設備投資		35	10	70

【修正後】

(単位：百万円)

		平成22年12月期	平成23年12月期	平成24年12月期
研究開発費	創薬支援事業	1	2	1
	創薬事業	347	367	473
設備投資		32	6	0

4. 修正の理由

(1) 平成22年12月期業績予想の修正に伴う事業計画の修正について

本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、創薬支援事業及び創薬事業において売上高の減少等が見込まれるため、事業計画を修正いたします。各事業別の詳細は以下の通りであります。

①売上計画及びプロジェクト毎の研究開発計画の修正について

1) 創薬支援事業

平成22年12月期における創薬支援事業の売上高は、国内においては従来より取り組んでまいりました既存顧客への深耕、提案型営業の推進等により、前回公表計画を概ね達成する見込み

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

であります。しかしながら、米国及び欧州での売上が、主に、円高ドル安・ユーロ安による売上高の減少、一部で回復基調は見られたものの欧米の大手・中堅製薬企業再編に伴う予算執行の停滞、米国におけるキナーゼタンパク、プロファイリングサービスの低価格化ならびに新規顧客開拓の遅滞等により伸び悩んだことから、前回公表計画を下回る見込みであります。前回公表計画の売上高に対する各地域別の達成率は以下の通りであります。

(単位：百万円)

地 域	売上高		達成率 (B/A)
	前回公表計画 (A)	今回公表計画 (B)	
日 本	321	317	98.9%
北 米	182	137	75.3%
欧 州	84	59	70.3%
その他	31	29	92.8%
計	620	543	87.7%

2) 創薬事業

創薬事業につきましては、各創薬プログラムの早期導出を計画し、製薬企業等へのライセンスアウト交渉を進めてまいりましたが、当事業年度内に導出契約交渉が完了しなかったことから、売上高を前回公表計画120百万円から27百万円に下方修正することといたしました。

また、探索研究から前臨床研究へのステージアップにつきましても、化合物の高次評価系を用いておこなう薬効評価試験の遅れから、平成23年12月期以降へ先送りする判断をいたしました。

②販売費及び一般管理費について

当社グループでは従来より事業の効率化による経費節減に取り組んでまいりましたが、その効果等により平成22年12月期通期の販売費及び一般管理費は前回公表計画に比し97百万円減の768百万円を見込んでおります。

③損益計画の修正について

以上の結果、平成22年12月期通期の売上高は、前回公表計画を168百万円下回る571百万円となる見込みであります。これに伴い、売上総利益は151百万円減少する見込みであります。上述の販売費及び一般管理費の削減等により、営業損失は前回公表計画比53百万円増の398百万円、経常損失は前回公表計画比54百万円増の370百万円、当期純損失は前回公表計画比52百万円増の397百万円となる見込みであります。

(2) 平成23年12月期以降の事業計画の修正について

①売上計画の修正について

1) 創薬支援事業

当社グループでは、引き続き主力の製品・サービスである、キナーゼタンパク質、アッセイ開発 (アッセイキット及びアッセイ系開発サービス)、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供、販売の拡大を目指してまいります。また、平成22年12月期第3四半期に販売を開始いたしましたバイオチン化キナーゼ蛋白質についても拡販に取り組んでまいります。

そのために、顧客の潜在的な需要を創出する提案型営業のさらなる推進、コスト競争力の強化、既存商品の顧客への更なるPR強化等により、既存市場への深耕とともに、新規顧客の獲得に取り組んでまいります。

特に国内におきましては、地の利を活かした顧客密着の提案型営業の更なる深化、海外におきましては、学術営業サポートの強化による提案型営業の拡充及び代理店販売網の整備等により、戦略的な営業展開を図ってまいります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

2)創薬事業

当社グループでは、より効果的に研究開発活動を推進していくために、平成22年12月期よりガンを重点領域とした研究開発方針に変更し、ガン領域以外の創薬プログラムの再編を進めております。それに伴って、研究の進捗に若干の遅れがでておりますが、平成22年4月に発足した創薬研究部では、新たに薬理機能が加わり、多種にわたるガン細胞評価系などの高次評価系の立ち上げ等を行っており、現在はこれらの新しい高次評価系を用いて、すでに当社グループのキナーゼ創薬基盤技術と強力な創薬化学技術により得られている高活性化化合物群について、薬効評価を順次実施しております。平成23年12月期からはガン化モデル動物（担ガンマウス）評価等の薬理基盤を強化するための研究開発体制の拡充も計画しており、さらなる研究開発の充実とスピードアップを図ってまいります。

このような研究開発の重点領域の見直しに伴う研究開発の遅れ等により、平成23年12月期以降の研究開発計画を修正いたしました。平成22年12月期に予定しておりました「探索⇒前臨床（又は導出）」へのステージアップにつきましては平成23年12月期へ変更いたしました。平成23年12月期に拡充を予定しております動物モデル評価技術を用いて臨床候補化合物を選定して、平成24年12月期には「前臨床⇒臨床（又は導出）」へのステージアップを計画しております。また、重点領域以外の創薬プログラムに関しましても着実に研究開発を継続し、平成24年度内のステージアップを計画しております。

②損益計画の修正について

前回公表計画で平成23年12月期における当社グループの黒字化を目指しておりましたが、創薬支援事業では製薬業界を取り巻く不透明な環境が継続するとともに円高基調の為替環境が引き続き継続することが見込まれること等から、また創薬事業では平成22年12月期で導出契約交渉が完了せず平成23年12月期に持ち越したこと等による導出スケジュールの遅れ及び研究開発方針の変更に伴う研究開発の進捗の遅れ等から、当社グループの黒字化を平成24年12月期に変更することといたしました。

以上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。